

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	術後早期離床における多職種協働の有効性の検証
研究責任者	聖隷浜松病院 A5病棟 播野陽子
研究実施体制	聖隷浜松病院
研究期間	2018年4月～2018年7月
対象者	2016年10月～2017年3月、2017年10月～2018年3月の期間に手術目的で聖隷浜松病院大腸肛門科に入院し、結腸切除術を行った方
研究の意義・目的	<p>術後早期離床の動向として「術後の早期離床支援における看護師を研究対象とした研究の動向と課題」では、術後の早期離床援助に関する研究の対象は患者から看護師に拡大しており、これは手術を受ける高齢者が増加する中、医療の安全性を確保し質を担保し在院日数の短縮化を図ることが医療機関において取り組まなければならない課題として明らかになっています。また、高齢者は加齢に伴う主要臓器の機能低下や多くの併存疾患を有していることから、心身機能の平衡が崩れると重篤化しやすく個人差が大きいという特徴があります。そのため標準的な治療計画の実施と同時に対象の個別な反応を判断しながら援助をすすめていく必要があるということが明らかになっています。</p> <p>A病棟では主に消化器外科・乳腺外科・呼吸器外科の患者がおり、周手術期看護を主として行なっています。A病棟では周手術期看護の中でも術後の早期離床について力を入れて取り組んでいます。2011年度より看護指標として、「消化器系癌の開腹術後患者の離床率(1病日の離床率)100%」を掲げ、患者・家族と共にこの目標を共有し取り組んでいます。しかし、近年離床率の低下が見られており、2013年度は84.8%であったが、2017年度は73%でした。背景には手術を受ける患者の年齢層が高くなっていることや、心疾患などの基礎疾患があり手術に望む患者の増加が要因の一つと考えられます。このような背景から、術後血圧低下や疼痛、嘔気などの症状出現のため、術後の離床支援への困難さがあります。A病棟では術後の離床支援は主に看護師が中心となって行っているが、リハビリの専門的な視点や医師の協力を得ることで安全を担保しながら早期離床を支援していきたいと考え、2017年度より多職種での離床支援に取り組み始めたため、その効果を検証し多職種協働の体制を確立したいと考えています。</p>
研究の方法	<p>対象患者について、診療録から入院期間・病名・術式・リハビリ(理学療法士・看護師)介入状況・離床状況の情報を収集し、多職種協働を開始する前と開始した後での離床状況や入院期間から、多職種協働の有効性を分析します。</p> <p>本研究に係る資料・情報は、研究終了まで研究責任者の管理の下、外部に漏えいすることのないよう適正に保管します。廃棄する際には、個人を特定する情報が記載されていないことを確認した上で適正に廃棄します。</p>

個人情報取扱	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 A5 病棟 (氏名)吉村彩音 TEL:053-474-2222(代表) 9:00~17:00 平日